

カラス」トノ趣旨ノ建議ヲ為スニ決定セル趣ノ処之ニ先チ十二月三日及四日ノ「ラ・デペーシユ・コロニアル」ハ大要左ノ如キ記事ヲ掲載セリ

十二月三日「ラ・デペーシユ・コロニアル」

「外務省ハ支那動乱ノ印度支那ニ波及センコトヲ危惧スルノ余リ日本ニ印度支那防禦ノ任ヲ託シ代償トシテ植民地住民ノ意向ヲ無視シテ之ニ印度支那ニ於ケル経済の特権ヲ与ヘントス之レ印度支那ノ利益ヲ輕視シ仏国ノ極東ニ於ケル地位ヲ左右スルモノニシテ斯ル重大問題ニ関シ利害關係者ノ輿論ニ耳ヲ掩フハ果シテ正当ナリト云フヘキヤ印度支那ヲ保全セントシテ之ヲ日本人ニ託スルモ日本人ノ機敏ナル早晚印度支那ヨリ仏人ヲ一掃シ終ルヘシ外務省ノ政策ハ奇怪ナリ」云々

十二月四日「ラ・デペーシユ・コロニアル」

「若シ政府ニシテ政治的理由ヨリシテ日本ニ印度支那ニ於ケル経済の特権ヲ与フルノ必要ヲ感スルナラハ仏本国並植民地ノ主要關係商工業者ノ意見ヲ求メタル後ニ之ヲ為スヘシトノ吾人ノ要求ニ対シ前植相「アンドレ・ヘッス」氏ハ之ヲ諒トシ日印関税問題討議ニハ印度支那商工

業委員会ヲシテ会員中ヨリ二名ノ代表者ヲ指名セシメ之ヲ該交渉ノ顧問トナスヘキコトヲ正式ニ約束シタリ然ルニ今日現政府カ該約束ヲ守ラス日仏交渉ニ該委員会ノ参加ヲ許ササルハ驚クニ堪ヘタリ前記約束問題ハ別トスルモ「メルラン」「キルシェ」諸氏ノ訪日ニ際シ印支関税問題討議ニ日本側ヨリハ外交官ノ外主要実業家代表ヲ出席セシメタルニ鑑ミ仏国政府ノ此ノ秘密主義ハ日本ニ比シ仏国当業者ノ地位ヲ劣弱ナラシムルモノナリ

政府ニシテ関税問題交渉ニ付關係商業會議所並諸団体ニ諮問セストセハ如何ナル情報ヲ醸スヘキ乎議會ハ之ヲ承認スヘキ乎植民地ニ活動スル仏国人ハ其ノ利益カ熱帯地ニ在ルノ故ヲ以テ黒人奴隸同様ノ待遇ヲ受クヘキ乎印度支那商工業委員会ハ政府ノ必要トスル場合ニハ其諮問機關タリシカ今日該委員会ハ其特権ヲ剝奪セラルヘキ乎」云々

下院植民地委員会ノ前記決議カ右新聞記事等ノ影響ヲ直接受ケタルモノナリヤ否ヤハ別トシ当国ノ一部人士カ今尚熱烈ナル反対運動ヲ試ミ居ルノ事実ヲ窺知セラルヲ以テ何等御参考迄右茲ニ報告ス

事項八 米国ニ於ケル排日問題

——移民法実施ノ影響——

二二四 五月一日

在サン・フランシスコ武富総領事ヨリ
幣原外務大臣宛

親日運動ニ対スルマクラッチーノ駁論ニツキ

報告ノ件

公第三〇三号

(五月二十九日接受)

大正十四年五月一日

在桑港

総領事 武富 敏彦(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

National Committee on American Japanese
Relations 宣伝運動ニ対シ V. S. McClatchy

駁論ノ件

Wickersham, Gulch 博士等 National Committee on

American Japanese Relations カ四月八日付書面ヲ以テ加

州方面ニ対シ同会入会方ヲ勧誘シ来レルニ対シ California

八 米国ニ於ケル排日問題 二二四

Joint Immigration Committee ノ書記 V. S. McClatchy

ハ要領左ノ通り駁論致居候

親日宣伝ハ米国内ノ各所ニ於テ宗教団体、商業団体並ニ平和団体等ニ依テ新聞雑誌又ハ各種ノ集合ヲ利用シテ行ハレツツアルモ右親日運動ノ目的ハ帰化不能ノ亜細亞民族ヲ排斥スル一七九〇年以来ノ米國國是ヲ放棄シテ日本人ヲ歐洲人ト同様「クォーター」制ノ下ニ入国セシムル様現行移民法ヲ改正セシコトヲ一般市民ニ宣伝スルニ在リ而シテ是等運動ノ主唱者ハ何レモ日本ト特種ノ關係ヲ有スル人物ニシテ「ウィッカーシャム」ハ昨年三井物産カ飛行機收賄事件ニ連座シテ取調ヲ受ケタル際ノ弁護士タリ Hamilton Holt ハ初メテ Japan Society ヲ設立シタル功績ニ依リ日本政府ヨリ叙勲セラレタルコトアリ

此等ノ人々ハ何レモ事實ニ就テ正確ナル報道ヲ欠キ居ル人々ニシテ國家ノ安寧ト威信トヲ外國人ノ幸福ヨリモ以下ニ

置カントスルモノナリ云々

尚今次ノ「ウィツカーシャム」氏等ノ運動ニ對シテハ当地方諸新聞紙ハ今日迄ノ処特ニ記事又ハ論說ヲ掲ケタルモノナク寧ロ默殺シ居ル有様ニ候前記「マクラッチー」ノ發表モ四月三十日 Daily News ニノミ掲載セラレ又五月一日ノ Illustrated Daily Herald 布哇演習ト早輶ノ行動ニ關連シタル紐育通信中ノ一節ニ本運動ニ簡單ニ言及シタルモノアルノミニ候(五月一日付往信第三〇二号参照)

右新聞記事切抜相添及報告候也
本信写送付先 在米大使

二二五 五月二日 在米國松平大使ヨリ
幣原外務大臣宛

米國キリスト教連合会晚餐會ニ於ケル松平大

使ノ演說ニツキ報告ノ件

機密第七二号 (五月二十八日接受)

大正十四年五月二日

在米

特命全權大使 松平 恒雄(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

ル処往電第一五五号所報ノ如ク尤モ顯著ナル見出ノ下ニ本使演說ノ關係部分ヲ拔載シ居リ(別紙乙号参照)又桑港到着以來直接間接日米戰爭ニ關スル論議ヲ耳ニスルコト屢々アリタルヲ以テ爾來適當ノ機會ニ於テ常ニ之レヲ否定シ反覆說明シ置キタルカ前記(Federal Council of Churches)晚餐會席上ニ於テ其ノ實質的(physically)ニ全然不可能ナル旨ヲ力說シ置キタル処之レ又各新聞紙ニ掲載セラレ(別紙乙号参照)特ニ二十四日紐育「サン」ハ別紙丙号ノ通り松平大使ノ演說ト中央公論所載予備海軍大佐水野広徳氏ノ論說トニヨリテ愈々日米戰爭ノ實質的ニ起リ得サルコト明カトナリタリト論評シ更ニ二十五日「バルチモア・サン」ハ別紙丁号ノ通り前記紐育ニ於ケル本使演說ノ新外人土地法ニ關スル部分ヲ拔粹致シ居リ候此段報告旁々本使演說全文(甲号)並ニ新聞記事相添申進候也

尚過日華府ニ於ケル(Oversa Writers Club)ノ本使招待會ニ於テモ大体右演說ト同趣旨ノ演說ヲ試ミタルモ同會ノ規約ニ依リ新聞ヘハ掲載セサルコトト致候

二二六 五月六日 在シアトル大橋領事ヨリ
幣原外務大臣宛

米國基督教連合会(The Federal Council of Churches of Christ)晚餐會ニ於ケル本使演

說ニ關スル件

四月二十日紐育市ニ於ケル The Federal Council of Churches of Christ 主催本使歡迎晚餐會ノ席上本使ハ同団体從來ノ態度ニ顧ミ移民問題ヲ論スルハ如何哉ト存セラレタルモ先方ノ希望モアリ何等之レニ言及セサル時ハ却テ其ノ好意的運動ヲ「ディスカレデ」スルノ恐アリ依テ新移民法ニ對シ日本國民拳ケテ不滿ヲ有シ居ルハ事實ニシテ此ノ儘ニテハ今後米國人ノ行動ヲ事毎ニ不安ノ念ト疑惑ノ眼ヲ以テ見ルヘク現ニ布哇ニ於ケル海軍大演習ノ如キ何等問題トスヘキ性質ヲ有セサルニ拘ラス本邦内ニテハ之レヲ非難スルモノアリ斯クテハ日米親善ノ増進ニ害アルヘキハ云フヲ俟タス去リナカラ本使ハ此際米政府ニ交渉ヲ開始スヘキ訓令ヲ有セス又本問題ハ専ラ米國識者ノ正義公正ノ觀念ニ基ク自覺ニ依リ兩國ノ満足スル解決ヲ見シコトヲ希望スルモノナル趣ヲ述ヘ置キタルカ此ノ点ハ特ニ新聞掲載方差支ヘ置候右ノ外今回ノ日露協約ニ關シ歐洲方面ヨリ伝ハリタル日露密約存在說ニ對シテハ根本ヨリ之レヲ否定シ置キタ

移民法改正運動ニ關スル新聞記事ニ對スル反

響ニツキ報告ノ件

機密第一九号 (五月二十九日接受)

大正十四年五月六日

在シアトル

領事 大橋 忠一(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

移民法改正運動ニ關スル件

紐育「ウィツカーシャム」氏「ギューリック」博士等ニ依リ移民法改正運動ニ關シ五月五日ノ当地「ハースト」系P・I紙ハ別紙切抜ノ通巨大ナル見出シノ下ニ煽動的記事ヲ掲ケタルカ当地方親日米人ノ意見トシテハ移民法通過後日本人ニ對スル感情漸ク緩和セントスル傾向アリ、排日新聞モ安政治家モ排日問題ノ最早人心ヲソソルニ足ラサルヲ觀取シ眼ヲ他ニ転セントシツツアル矢先右様ノ記事表ハルルハ極メテ好マシカラス排日移民法ニ付スル反感ハ宗教家ヲ中心トシテ相当力アル模様ナルモ未タ人心ニ徹底シ居ラス殊ニ排日移民法運動発祥地タル西部諸州排日家及彼等ニ從フ群集ニ取リテハ移民法ノ修正ハ一大脅威ニシテ右修正運動

ノ進展スルニ從ツテ必スヤ猛烈ナル反對運動ヲ開始スヘク且ツ夫レヲ機會ニ排日移民法通過後漸ク忘レラレントシツアル米國出生兒童市民権剝脫運動ノ如キ再ヒ擡頭スルハ勿論近來寛大トナリタル土地法勵行ヲ刺戟スヘク旁々機熟セサル今日排日移民法修正ノ政治的運動ニ出ツルハ徒ラニ排日家ニ喧騒ノ題材ヲ供スルニ止リ何等益ナシト云フニアルカ如シ

右何等御參考迄及報告候

敬具

本信写送付先 在米大使 紐育総領事

新聞切抜添付

二二七 五月八日(着)

在サン・フランシスコ武富総領事
ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

移民法改正運動ニ関スルマクラッチーノ声明

書公表ニツキ報告ノ件

第八二号

Wickersham 及 Gulick 博士ノ移民法改正運動ニ関シ五月一日ノ当地 Illustrated Daily Herald ハ非愛國的運動ナリト罵倒シ四日ノ Examiner ハ日本ハ新大使ヲシテ折角

日米親交ノ増進ニ努力セシメ此際移民問題ヲ再開セサルヲ以テ得策トスト論シタルカ McClatchy ハ四日 Joint Immigration Committee ノ名ニ於テ要領左ノ通ノ声明書ヲ公表シタリ

今次ノ移民法改正運動ハ徒ラニ兩國間ノ論議ヲ醸スニ過キスシテ日本ノ希望スル満足ナル解決ヲ却テ遅延且困難ナラシムルモノナリト信ス該運動ハ日本ニ対スル友誼ト尊重ヲ表示セムカ為ニ米國ノ伝統的移民政策ヲ變更セムトスルモノナルカ Gulick 博士ハ本運動ノ張本人ニシテ同博士ハ日本ニ対シ從來不賢明ナル献策ヲ為シ来レルカ今回モ亦同様ナリ東京來電ニ依レハ日本ノ識者ハ此際移民問題ノ論議ヲ再燃セシムル事ニ反對シ居レリトノ事ナルカ吾人ハ加州在住ノ日本ノ親友ヲ以テ任スル人士中ニモ同様ノ意見ヲ有スル者アルコトヲ知ルモノナリ

在米大使及在米各領事ニ郵報ス

二二八 六月一日 在米國松平大使ヨリ
幣原外務大臣宛

新移民法通過後ニ於ケル米國人ノ態度等ニツキ報告ノ件

機密第八三号

(七月四日接受)

大正十四年六月一日

在米

特命全權大使 松平 恒雄(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

新移民法通過後ニ於ケル米國人ノ態度並本使ノ執

ル態度ニ関シ報告ノ件

新移民法通過後ニ於ケル一般米國人ノ日本ニ対スル態度如何ニ関シテハ本使着任以來出来得ル限り之カ觀察ニ努ムル一方又本使ノ執レル態度ニ対シテハ一般ヨリ深甚ノ注意ヲ払ハレ居ルコトヲ感知致候ニ付特ニ慎重ナル態度ヲ持シ来リ候処今日迄ニ於ケル本使ノ觀察並態度ニ付左ニ具陳致候本使着任當時ニ於テハ当地官憲及言論界ハ果シテ本使カ新ニ帝國政府ノ訓令ヲ齎シ本件ノ交渉ヲ開始スヘキヤ否ヤヲ氣遣ヒ成ル可クハ本件ハ既ニ終結セリトノ見解ヲ發表セムコトヲ希望シ居ルカ如キ傾向顯著ナルモノアリシ処本件カ打切ラレタルモノニアラサルコト勿論ナルヲ以テ本使ハ新聞記者トノ会见又ハ演說等ニ於テモ日本側ニ於テハ本件カ終了セルモノト解シ居ラサル趣旨ヲ述ルト同時ニ本問題ニ

関シ交渉ヲ再開セムトスル訓令ヲ現在ニ於テハ所有シ居ラルサル意ヲ洩シタル結果此ノ点ニ関スル一般ノ注意ハ鎮靜シタル模様ナルカ只反動ヲ起ササル程度ニ於テハ日本國民ノ本件ニ対スル不滿ノ声ハ容易ニ鎮靜セス將又本件ヲ未解決ノ儘ニ放置スルコトハ多数日本人ヲシテ将来事毎ニ不安ト疑惑ノ眼ヲ以テ米國ノ態度ヲ曲解セシムル虞アルヲ以テ何時カハ米國人自身ノ注意ト正義心ニ依リ円満ナル解決ヲ遂ケムコトヲ希望スルノ意味ハ適當ノ機會アル毎ニ述ヘ居候尤モ公ノ席上右ノ如ク立入リテ意見ヲ述フルハ動モスレハ機微ノ關係ヲ惹起スル虞アルニ付斯カル場合ニハ之ヲ新聞紙ニ発セラレサル様取計ヒ居候 (Oversea Writers 又 Federal Council of Churches of Christ in America ノ

会合ノ場合等ニ於ケルカ如シ) 目今新移民法反對ノ氣勢ヲ挙ケ實際的ニ運動ヲ起シツツアル最モ顯著ナルモノハ「フェデラル・カウンシル・オブ・チャーチユス」ノ「ギュリック」博士及其ノ他ノ人々ニシテ會テ日本ニ在リシ牧師連ハ各地方ニ於テ新移民法反對ノ演說ヲ試ミ又「ギュリック」博士「ウイカーシャム」氏等ハ一九二七年ニ於テ日本人ニモ「クオーター」ヲ適用スヘク

移民法ノ改正ヲ提議スヘキヤ否ヤニ付各方面ノ意見ヲ徴シ又米国人ヲ教育スル目的ヲ以テ日米關係ノ諸般ノ事實ヲ発表スルノ手段ヲ講シツツアルコトハ已ニ御承知ノコトト存候而シテ右宗教団体ノ運動ニ関シテハ当然排日家ノ反対モアリ又親日家ニ於テモ寧ロ目的貫徹上害アリト為ス者モ有之処苟モ本運動ニ対シテ日本官憲力些カニテモ連絡アルカ如キ感想ヲ一般ニ与フルコトハ極メテ危険ナルカ去リ速故意ニ彼等ヲ遠クルコトモ日本ノ友人ヲ失フノ結果トナルヘキヲ以テ此ノ二点ニ付テハ本使ニ於テモ特別ノ注意ヲ払ヒ居ル所ニ有之從テ着任早々「カウンシル」ノ歡迎宴ヲモ快ク之ヲ承諾シ且其ノ希望ニ依リ移民問題ニ関シテモ前陳卑見ヲ開示シタリシモ何等新聞紙ニ發表セシメサリシ次第ニ有之候

然ルニ「ギユリック」博士等ニ於テモ自己ノ運動ニ付多少不安ノ念ヲ有スルモノト見ヘ其ノ面接シタル領事ニ対シ意見ヲ徴シタルコトアリ其ノ都度關係領事ヨリ本省ヘ稟申ノ次第アリタリト記憶致候処本使ニ対シテモ着任後間モ無ク同博士ヨリ其ノ運動ニ対スル意見ヲ徴シ来リタルヲ以テ客月二十三日同氏來訪ノ際本使ハ同博士一派ノ好意ト日米親

善關係ノ為ニスル不斷ノ努力ニ対シ深く謝意ヲ表スルト同時ニ本運動ニ関シ些カニテモ日本側ト連絡アリトノ感想ヲ一般ニ与フルノ危険ナルコト從テ本運動ヲ「エンカレッヂ」スルコトモ又「デイスカレッヂ」スルコトモ本使トシテハ為シ難キモ乍去今日ノ如ク未解決ノ儘推移スルコトハ兩國ノ親善關係維持ノ上ニ有害ナルヲ以テ何トカ將來寧ロ米国人ノ手ニ依リ適當ナル解決方法ヲ講セラレムコトヲ希望スルノ念ヲ抛擲シ能ハサル旨ヲ述ヘタルニ同博士モ十分之ヲ諒トシ急速ニ本件ヲ解決スルコトハ困難ナルモ出來得ル限り米国人ヲ教育シ日本ノ真相ヲ知ラシムルコトニ努力セハ何時カハ目的ヲ貫徹シ得ヘキ旨ヲ語り申候其ノ翌日同博士ハ紐育ニ歸リタルモ其ノ華府滞在中國務長官「ケロツグ」氏ニ面会シ其ノ意見ヲ求メタルニ同長官ハ同氏等ノ対日啓発運動ニ付テハ何等異存ナキ所ナルモ移民法ヲ改正シ日本ヲ「クォータ・ベシス」ニ置カムトスル運動ニ対シテハ全然不賛成ノ意ヲ表シタルニ付帰紐ノ後更ニ今後ノ方針ニ付篤ト打合ヲ遂クル積リナル旨同博士ヲ停車場ニ見送リタル当館ノ「モーア」ニ語リタル趣ニ有之候其後客月二十九日日本使國務次官補「マックマレー」ト大使館ニ於テ食

後非公式雜談ヲ試ミシ時ニモ同次官ハ本使ニ対シ「ウイカーシヤム」及「ギユリック」博士一派ノ運動ハ極メテ危険ニシテ恰モ爆彈ニ火ヲツクル如キ觀アリト語リタルコトアリ然ルニ本月十五日沢田參事官力費府ニ出張シタル際元慶

応大學教授タリシ「ジョーンズ」氏(Thomas Jones)ト会谈シタルニ同氏ハ紐育ニ於ケル「カウンシル」ノ幹部ト連絡アリ充分其ノ間ノ消息ヲ承知シ居ル趣ニテ其ノ數日前幹部間ニ將來執ルヘキ方針ニ付相談会アリタル際多數ノ意見ハ移民法カ日本ニ対シ「インジャスチス」ヲ加ヘタルコトハ一同ノ認メサルヘカラサル所ナルモ去リトテ此ノ際直ニ日本ヲ「クォータ・ベシス」ニ置ク意味ノ移民法ノ改正運動ヲ起ストキハ太平洋沿岸ニ於ケル排日派ノ正面攻撃ヲ招キ延テハ一般ノ反対ヲ誘起シ遂ニ同運動ノ目的ヲ貫徹シ得サルノ危険アルヘキヲ以テ此ノ種ノ運動ハ之ヲ中止シ教育方面(Educational Campaign)ニ主力ヲ注ク方可ナリトノ説ニ傾キタルカ少數ノ者ハ之ヲ以テ軟弱ナリトシ苟モ宗教家トシテ不正ナリト認メタル以上成否如何ニ不拘全力ヲ尽シテ正道ニ導クコトニ努ムヘク事ノ成否如何ヲ考ヘ躊躇スルハ政治家ノ為スヘキ所ナラムモ宗教家トシテハ斯

カル微温的態度ヲ執ルヘキニアラストテ強硬ニ反対シタル為更ニ特別委員會ノ議ニ付シ篤ト研究スルコトナリタル趣ニ有之候

又客月二十日ヨリ三日間当地ニ於テ開催セラレタル合衆國商業會議所大会ニ參集シタル「シヤトル」ノ「シヤンク」氏(Corwin Sheridan Shank「バプチスト」教會ニ關係アリ目下同地ニ於テ實業ニ従事ス客年日本ニ來航セリ)又桑港商業會議所副會頭「リンチ」氏(Robert Newton Lynch)ハ何レモ本使ヲ來訪シ目下西部地方ニ於テ比較的排日家カ沈黙シ居ル際ナレハ此ノ際反動ヲ起スカ如キ運動ハ避クルヲ可トストノ意見ヲ述ヘ殊ニ「リンチ」氏ノ如キハ「ウイカーシヤム」及「ギユリック」博士等ノ移民法改正運動ハ西部ニ於ケル「マックラチー」一派ノ反対運動ヲ再ヒ激発セシメ極メテ有害ナルヲ以テ帰途紐育ニ立寄り同博士ニモ面会シ意見ヲ述フル積ナリト語り候右ニ対シ本使ハ前陳ノ如ク日本側トシテハ全然「カウンシル」ノ判斷ニ任スヘク只將來本問題カ何等カノ方法ニ依リ解決セララルコトノ必要ナル所以ヲ繰返シ説示致置候

要之以上ハ本使着任以來日尚淺キモ其ノ間ニ發生シタル事

実ヲ縷述シタルモノニ有之候処果シテ「クオータ」ノ適用不可能ナリトシテ第二段ノ策ニ移ルヘキヤ又第二段トシテ如何ナル策ヲ採用スヘキヤ等ニ付テハ尚暫ク当國ニ於ケル状態ヲ觀察シタル後何分ノ卑見ヲ上申シタキ所存ニ有之候ヘ共目下ノ処ニ於テハ前述ノ通ノ態度ヲ持シ暫ク成行ヲ觀察スルコトヲ適當ナリト思考シ居ル次第第二有之候本件ニ關シテハ在米各領事等ニ於テモ時々親日家等ノ質問ニ對シ如何ニ之ニ答ヘ又如何ナル態度ヲ執ルヘキヤニ付疑義ヲ生シ本省ヘ經伺ノ場合モ多カルヘキニ付旁々詳細報告ニ及フ次第第二有之候若シ右本使ノ採リタル態度ニ對シ何等御意見モ有之ニ於テハ御回示相煩度此段報告旁々及稟申候也

二二九 六月八日 在サン・フランシスコ武富總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

ギョーリック博士等ノ移民法改正運動ニツキ
報告ノ件

機密公第二八号 (七月四日接受)

大正十四年六月八日

在桑港

總領事 武富 敏彦(印)

ササル旨語居候右御参考迄及報告候也

追テ別紙書面写ハ前記ノ通公表セストノ条件ニテ貰受ケタル次第第二付右ニ御承知相成度此段為念申添候

本信写送付先 在米大使、在紐總領事、在ホノ總領事、

在市領事、在羅領事、在ポー領事、在ニュ

ー領事、在沙領事

二二〇 六月十三日(着) 在米國松平大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

東京ニ於ケル國恥記念日ノ移民法反對運動ニ

關スル米國ニ於ケル懸念ニツキ報告ノ件

第二〇七号

七月一日ヲ國恥記念日トシ東京ニ於テ移民法ニ對スル「デモンストレーション」ヲ行フヘシトノ報道ハ相當当地方人士ノ注目ヲ惹キ居ル処「ギョーリック」博士ハ「ウィッカ―シヤム」及同博士等ノ「クオータ」適用運動カ國恥記念日当日日本國民ニ通報セラルヘシトノ報道ニ關シスル政治運動ハ未タ開始セラレス從テ右ノ如キ企ハ甚タ迷惑ニ感スル旨渋沢子爵ニ電報シタル由ニテ當館ヨリモ誤解ナキ様処置方依頼アリタリ同博士等ハ目下ノ処「クオータ」適用ニ

八 米國ニ於ケル排日問題 二二〇

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

「ギョーリック」博士等ノ排日移民法改正運

動ニ關スル件

当地商業會議所副會頭「ニュートン・リンチ」ハ先般來全米商業會議所大会其他ノ所用ノ為華盛頓其地ノ東部地方旅行中ノ処其節紐育ニテ「ギョーリック」博士等トモ會談シタル趣ニテ同博士等トノ會談ニ就キ數日前本官等數名ノ主ナル邦人集會ノ席上ニ於テ内話致候右ニ依レハ先般「ギョーリック」博士等ノ移民法改正運動当地方ニ報道セラレタル結果「マクラッチ」「シャレンベルグ」等所謂当地方排日派ニ又々活躍ノ口実ヲ与ヘ一種ノ對抗運動惹起ノ形勢顯著ナラントスル当地方ノ実情(五月一日付公第三〇三号五月十二日付公第三五四号五月十八日付機密第二五号往信及往電第八二号参照)ヲ「ギョーリック」博士ニ語リタルニ對シ同博士ヨリハ種々同博士等ノ立場ニ就キ説明スル所アリ最後ニ同博士ハ「リンチ」ノ請ニ応シ別紙^(省略)写ノ通り説明の書面ヲ同人ニ与ヘタル趣ニ有之候尚「リンチ」ハ当地方ニ於テ排日派ノ運動ヲ抑フル為隨時適當ノ向ヘ右書面ヲ内示スル所存ナルモ個人的ノ書面故公表スルカ如キコトハ為

關スル移民法改正運動ノ可否ニ付専ラ關係者ノ意見ヲ徵シ居レルカ過日同博士カ國務長官ニ會見セル際モ同長官ハ該運動ニ對シ全然反對ノ意見ヲ述ヘタル由又客月末桑港ヨリ上京セル「リンチ」ノ如キモ該運動ハ目下沈黙セル「マクラッチ」一派ノ排日運動ヲ再開セシムル虞アルニ付極メテ有害ナリト本使ニ語レルカ歸途紐育ニ於テ「ギョーリック」博士ニモ其旨懇談セル筈ナリ從テ目下本部ニ於テハ該運動ヲ進ムヘシトスル説ト暫ク是レヲ中止シ専ラ本問題ニ關スル米國人ノ啓発運動ヲ為スヘシトスルノ両説アリテ未タ何レトモ決定ヲ見サル状態ナリ尚本運動ニ關シテハ予テ同博士ヨリ夫レト無ク本使ノ意見ヲ求メタル処日本政府側トシテハ該運動ニ触ルコトハ極メテ危險ナル而巳ナラス寧ロ反對派ニ口実ヲ与ヘ運動ヲ不成功ニ終ラシムル虞アリ依テ本使ハ右不斷ノ努力ヲ謝スルト共ニ右ノ事情ヲ打開ケ全然右運動ハ同博士等ノ「イニシアチーブ」ニ依リ行動スルコトヲ希望シ贊否ノ意見ヲ述フルコトヲ避ケテキタリ尚右國恥記念運動ニ關スル真相通報アリタシ

在米各領事(「ホノルル」ヲ含ム)ヘ暗送セリ

二二二 七月二日 在サン・フランシスコ武富総領事ヨリ
幣原外務大臣宛

移民法施行一周年当日ノエキザミナー紙記事
ニツキ報告ノ件

公第四六三号 (七月二十四日接受)

大正十四年七月二日

在桑港

総領事 武富 敏彦 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

現行移民法施行一周年当日当地「エキザミナ

ー」紙論評ノ件

現行移民法施行一周年当日タル七月一日発行諸新聞ニハ移民法及排日關係ノ記事又ハ論説ヲ掲クルモノナキモ唯当地「エキザミナー」ノミハ要領左ノ通りノ社説及漫画ヲ掲載致居候

新移民法施行以来同法ノ不備及ヒ欧州移民ニ対スル待遇ノ不公正等ニ関スル諸種ノ批難中ニハ相当傾聴ニ価スルモノナキニアラサルモ排日移民条項カ米國ノ欲セサル人種ヲ排斥シ以テ米國ノ利益ヲ保護スルニ有効且賢明ナル

機密第九八号

(九月二日接受)

大正十四年八月五日

在米

特命全權大使 松平 恒雄 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

現行移民法ノ成績ニ関スル諸方面ノ感想並同

法改正方ニ関スル一部輿論ニ関シ報告ノ件

新移民法実施後既ニ滿一箇年ヲ經過シタル処今日迄右ニ関シ時々発表セラレタル諸方面ノ意見ヲ綜合スルニ政府並其他ノ方面ニ於テモ同法実施ノ結果移民入國數ヲ縮減シ且移民ノ素質ヲ精選スルコトナリ大体ニ於テ予期通りノ好成績ヲ挙げケツアルモノト為シ同法ノ根本主義ニ対シテハ異論ヲ挿ムモノ無キカ如ク本年四月当地ニ開カレタル米國革命後裔婦人協會總會ニ於ケル「クーリッヂ」大統領ノ演說中現行移民法ハ將來永久的ノモノト認メラルルニ至ルヘシト述ヘタルハ(六月二十四日付信公第四八六号)蓋シ現行法ニ対スル多數米國民ノ感想ヲ叙述セルモノナリト認メラレタルカ其ノ後六月二十三日労働省次官「ハズバンド」モ新聞通信員ニ対シ客年七月一日以後十箇月間ニ欧州ヨリ

法律ナルコトハ大多數市民ノ容認スル所ナリ一部半可通論者ハ一般市民ノ感情ヲ誘導シ以テ日本移民ノ無制限入國ノ主張ニ加担セシメントシタルカ其結果ハ凡ソ此種排米の煽動カ当然失敗スヘキカ如ク全然失敗ニ歸シタリ是レ日米間ニ現存スル確固且真実ナル友情ハ平和論者乃至ハ一部ノ感情的宗教家ノ所為ニ俟ツモノニアラスシテ兩國間通商關係ノ紐帶ニ倚存スルモノナルコトノ証拠ナリ近來米國ハ排日法ノ効果未タ充分ナラストノ事實ニ注意ヲ払フニ至リタル結果日本人ノ潛法手段ヲ発見スルニ至レリ即チ布哇ノ米國官憲カ同地出生ノ日本人ヲ帰化セシメ以テ米國ヘノ入國ヲ自由ナラシメント計畫シツツアルコトナリ米國ハ如斯放肆ナル官憲ノ取締ニ依頼スル所ナク断然潛法手段ヲ封スルノ舉ニ出テサルヘカラス右社説切抜並ニ漫画切抜相添及報告候 敬具 本信写送付先 在米大使

二二二 八月五日 在米國松平大使ヨリ
幣原外務大臣宛

新移民法實施後一年間ノ成績ニ関スル米側ノ
評價ニツキ報告ノ件

入國セル移民總數ノ八十七%ハ北及西歐洲人ニシテ之ヲ歐洲大戰前南及東歐洲移民カ約八十%ヲ占メ居リタル當時ノ狀態ニ對比シ甚タシキ相違アルコト及一般移民入國數ノ甚タ減殺セラレタルコトヲ指摘シテ新移民法カ予期通りノ好結果ヲ收メツツアル旨談話シタル趣ニテ一般ニ移民法實施後ノ実績ニ関シ満足ノ態度ヲ示シ居レリ然ルニ輿論ノ一角ニ於テハ之ヲ以テ足レリトセス更ニ進ンテ現行移民法ノ根本方針ヲ一層遺漏ナク貫徹セシムル為同法ノ不備ヲ補ヒ又移民及帰化ニ関スル現行諸法規ヲ互ニ連絡統一シ以テ其ノ完璧ヲ期セントシ其ノ具体案トシテ

(一) 「クオータ」適用地域ヲ加奈陀及中南米諸國ニモ拡張スルコト

(二) 在米外國人登録制度ヲ設クルコト

(三) 若シクハ移民ニ certificate of arrival ヲ發給シ歸化ニ関スル必要証書類ノ一トスルコト、及

(四) 不良外國人追放ニ関スル新制度實施
等主張セラレツツアリテ實ハ前期議會若クハ前々議會ニ於テ此等諸問題ニ関スル議案ノ提出アリタルコトハ當時既ニ夫々報告済ニ付委細御承知ノコトト察セラルルカ此等議案

ハ各種ノ事情ニ依リ孰レモ議會ヲ通過セスシテ今日ニ及ヒ居ル次第ニシテ法案提出者タル各議員ハ勿論行政部側ニアリテモ「デヴィス」労働長官ノ如キハ之等諸制度実施ノ必要ナルコトヲ引続キ熱心ニ力説シ居リ（大正十四年一月四日付公第四号及同二月九日付公第一三〇号）民間ニ於テモ愛国主義諸団体ヲ初メ労働長官等ノ説ヲ支持スルモノ相当ニアリ

叙上ノ情況ニ顧ミ次期議會ニハ或ハ前陳諸制度ノ創設ヲ目的トスル現行法改正運動行ハルコトアルヘキヤモ計ラレスト觀測スル向モアル処他方ニ於テ現行法ノ嚴重ナル制限政策ヨリ生シツツアル實際上ノ不都合ヲ矯正セントスル意見モアリ例ヘハ御承知ノ如ク未タ纏リタル具体的ノ運動ヲ為ス域ニハ達セサルモ日本移民ニ対シテモ欧州移民同様「クオート」適用方ヲ從惠スル宗教団体及其ノ他ノ方面ノ意見アリ又現下ノ移民制限政策ノ米国内労働需給關係ニ及ホス影響ニ付テモ相当ノ議論行ハレ最近 National Industrial Conference Board ヨリ一九二三年七月ヨリ翌二四年四月迄十箇月間ニ入国セル不熟練労働者ノ總数九万七千八百余ナリシニ之ト同期間タル過去十箇月間ニ入国セル同

種労働者ノ數僅カニ二万七千九百余ニ過キス而モ同期間中ニ米国ヲ去リタル同種労働者ノ數四万四千七百余ニシテ結局米国ハ右期間中ニ一万六千八百余ノ不熟練労働者ヲ失ヘル結果トナル旨發表シタルカ資本家側ハ右ノ如キ情況ヲ指摘シテ労働供給ノ不充分ナルヲ訴ヘ「クオート」及契約労働移入禁止ニ關スル現行法ノ制限ニ拘ラス国内産業ノ狀況ニ応シ労働者ヲ移入シ得ルノ制度ヲ設ケンコトヲ主張シツツアリ數年來之ト同様ノ主張ヲ為シツツアル National Association of Manufacturers ノ如キモ最近其ノ特別移民委員會ヲシテ新移民法実施以來ノ情況ヲ調査セシメ之ニ基キ更ニ前記労働者移入ニ關スル制度ノ実施ヲ目的トスル現行法改正案ヲ作り次期議會ニ對スル準備ヲ為シツツアル旨公表シタルカ御承知ノ通り「デヴィス」労働長官ハ從來右労働者特別移入許可ニ關スル制度ノ実施ヲ支持シ居レル次第ニモ有之或ハ次期議會ニ於テ本問題ニ關シ之力達成方ニ努力スルナルヘシト想像スル向モアリ然ルニ労働団体側ニアリテハ該制度ハ労働ヲ低下セシメ又同盟罷業防止ノ具トシテ資本家側ニ惡用セラルル虞アリトノ見地ヨリ反対シ又本制度ハ現行移民法ノ根本主義タル移民ノ素質選択及移

民入国數ノ嚴重ナル制限ノ方針ニ牴触スル処アリ又米国ノ永年実施シ来レル契約労働移入禁止政策ニ對スル一部ノ變更ト見ラルヘキモノナル為議會方面ニ於テモ相当ノ反対意見アル由ニ伝ヘラル

追而客年七月ヨリ本年四月迄ノ移民ニ關スル各種ノ統計表別紙写甲号及乙号^(省略)ノ通り茲ニ添付セルニ付御査閲相成タシ

本信写送付先 在米各領事

(別紙写甲号)

The State Department issued the following figures on immigration for the year 1924—25:

Country	Total Quota 1924—25	Number of Quota Immigrant Visas Granted
Afghanistan	100	..
Albania	100	60
Andorra	100	..
Arabian Peninsula	100	1
Armenia	124	48
Australia	121	76
Austria	785	763
Belgium	512	510
Bhutan	100	..

八 米国ニ於ケル排日問題 二二三

Bulgaria	100	84
Cameroon (British)	100	..
Cameroon (French)	100	3
China	100	100
Czecho-Slovakia	3,073	2,699
Danzig, Free City of	228	228
Denmark	2,789	2,789
Egypt	100	100
Estonia	124	122
Ethiopia	100	..
Finland	471	466
France	3,954	3,711
Germany	51,227	50,577
Gr. Britain & Northern Ireland	34,007	33,891
Greece	100	82
Hungary	473	321
Iceland	100	79
India	100	67
Iraq	100	27
Irish Free State	28,567	28,567
Italy	3,845	2,487
Japan	100	3
Latvia	142	120

八 米国ニ於ケル排日問題 二二三

Liberia	100	..
Liechtenstein	100	27
Lithuania	344	344
Luxemburg	100	100
Monaco	100	3
Morocco	100	17
Muscat	100	..
Nauru	100	..
Nepal	100	..
Netherlands	1,648	1,603
New Zealand	100	97
Norway	6,453	6,446
New Guinea	100	..
Palestine	100	62
Persia	100	100
Poland	5,982	5,625
Portugal	503	487
Ruanda and Urundi	100	..
Rumania	603	583
Russia, European & Asiatic		
Samoa	100	4
San Marino	100	25
Siam	100	..
South Africa, Union of	100	88

三二八

South West Africa	100	2
Spain	131	122
Sweden	9,561	9,561
Switzerland	2,081	2,069
Syria and The Lebanon	100	90
Tanganyika	100	..
Togoland (British)	100	..
Togoland (French)	100	..
Turkey	100	92
Yap	100	..
Yugo-Slavia	671	500

二二三 十月六日 在米 松平 恒雄 (印)
幣原外務大臣宛

新移民法ノ実績ニ関スル研究結果公表及ビ之
ニ対スル新聞論調ニツキ報告ノ件

公第六七八号 (十月三十日接受)

大正十四年十月六日

在米

特命全權大使 松平 恒雄 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

新移民法ノ実績ニ関スル National Industrial

Conference Board ノ公表並之ニ対スル新聞

論調報告ノ件

労働省公表ノ一九二四—二五年度移民統計ハ本年九月二十九日付公^(省略)第六六七号拙信ヲ以テ及報告置タル処在紐育 National Industrial Conference Board ハ九月七日右移民統計ニ基ク同団体ノ研究ノ結果ヲ公表シ移民「クオータ」ヲ充実セサリシ国六個国アリタルコト渡米移民数ヨリモ米国ヨリノ帰国移民数大ナリシ国十六個国アリタルコト労働者入国数激減シ殊ニ不熟練労働者ニアリテハ新タニ入国セルモノヨリモ米国ヲ立チ去リタルモノノ数大ナリシコト等ヲ指摘シ居レルカ諸新聞ハ其ノ内容ヲ報道スルト共ニ之レニ対シ論評ヲ加ヘタルモノ少カラス即チ一方ニハ新移民法ノ制限的政策ヲ支持謳歌スルモノアルニ反シ他方ニハ其ノ米国産業ニ及ホス悪影響ヲ指摘シテ新移民法ノ完璧ナラサルヲ論スルモノアリ新移民法ニ対スル世論ノ大体ニ付テハ八月五日付機密第九八号中ニ申進メ置キタルモ尚ホ御参考ノ為前記団体ノ公表ノ内容梗概並ニ右論説ノ大要左ニ報告ス

一 National Industrial Conference Board ノ調査公表ノ

八 米国ニ於ケル排日問題 二二三

梗概

該調査ハ大体左ノ点ヲ特筆シ居レリ (委細ハ別紙新聞記事ニヨリ御承知相成度シ)

(一) 一九二四—二五年度ノ入国移民 (イミグランツ) 総数ハ前年度ノ入国移民総数ノ四割ニ当ルニ過キスシテ前年度ノ半分以上トナレリ更ラニ注目スヘキハ出国移民数ノ激増セルコトニテ一九二四—二五年度ノ net immigration (入国移民数ヨリ出国移民数ヲ控除セル数) ハ其ノ前年度ノ net immigration ノ僅カニ三割二分ニ当ルニ過キス其ノ実数左ノ如シ

入国移民		出国		ネット・イミグレーション	
総数	移民数	移民数	移民数	移民数	移民数
一九二二—二四年	七〇六、六六六	六、七九九	六、七九九	六、七九九	六、七九九
一九二四—二五年	二九四、三四	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六
(前年度)		(前年度)		(前年度)	
(ノ四割)		(ノ四割)		(ノ四割)	

(二) 出入国移民数ノ国籍別統計ニ依ルニ入国移民数カ出国移民数ヨリモ少カリシモノ十六個国ニ及ヒタリ
即チ左ノ如シ

三一九

	移民 入国数	移民 離米数	ネット・イミ グレーション
ブルガリヤ	一四〇	二六	六
ギリシヤ	八六	六、五七四	五、七〇八
ハンガリヤ	六六	八五	三五
イタリヤ	六、〇三三	七、一五	一〇、九八
リニア	四三	五一	五
ポルトガル	六九	三、六〇〇	二、九一
ルーマニヤ	一、一六三	一、四三三	二七〇
スペイン	二七五	三、六八二	三、七〇七
ユゴスラヴィヤ	七四	二、四四四	一、七〇〇
支那	一、九七	三、四三三	一、四五六
日本	七三	一、二二	四九
オーストラリヤ	二七三	三、四四	七
印度	五	二六	六〇
ニュージーランド	一四	一五	一六
キューバ	一、四〇〇	一、九五九	五九
他ノ西印度	六六	二、〇六	一、四〇〇

(一)一九二四—二五年度ニ於テ移民「クオート」ヲ充実セザリシ国左記六個国ニ及ヘリ

十萬一千五百八十六人ニシテ此ノ内加奈陀及墨国ヨリノ net immigration ハ十三萬九百九十三人ノ多キニ達シタリ

二、新聞論評ノ大要

以上ノ公表ニ関連シ発表セラレタル新聞ノ論説左ノ通り

(一)紐育「ヘラルド・トリビューン」ハ九月九日ノ社説ニ於テ「クオート」ヲ充実セザリシ国六ヶ国ニ及ヒ且ツ出国移民ノ実数カ前年度ニ比シ多数ニ上リシ等ノ事実ニ言及シ右ハ最近欧州諸国ノ經濟復興ニ伴フ結果ナランカ此ノ事実ニ徴スレハ新移民法ハ最初欧州諸国ノ非難セル如キ過当ノ移民制限ヲ欧州諸国ニ課シタルモノニ非ス從ツテ同法ハ今ヤ諸外国ノ非難ヲ受ケシテ米國ノ移民制限政策ヲ實現シ得ル良法ナルコト証明セラレタリト云ヒ「クリスチャン・サイエンス・モニター」モ十日ノ社説ニ於テ伊太利「ギリシヤ」等六個國カ夫々自國ニ与ヘラレタル「クオート」ヲ最大限度迄利用セザリシコトハ欧州諸國ヨリ喧伝セラレ居タル新移民法非難ノ声ト思ヒ合セ頗ル意外トス可キ事実ナリ此ノ事実ニ顧ミレハ新移民法ハ欧州諸國ニ對シ左程不都合ナル法律ニアラスト云フヲ得ト述ヘ費府「インクワイヤラ」

(1)	チエコスロバ キヤ	移民入国数 「クオート」ノ	八十三	%ナリ
(2)	英 国	同	八十七・五	%ナリ
(3)	独 逸	同	八十九	%ナリ
(4)	伊 太 利	同	九十	%ナリ
(5)	瑞 典	同	九十四	%ナリ
(6)	アイルランド	同	九十五	%ナリ

四入国制限ノ影響ヲ最モ多ク受ケタルハ労働者ニシテ一九二四—二五年度ニ於テ離米セル不熟練労働者ノ数ハ入国セル不熟練労働者ノ数ヲ超過セリ

	一九二四—二五年度	一九二三—二四年度
不熟練 労働者	離米者入国者 一、一〇六 ヨリモ多キコト	離米者 七、七三三 ヨリモ多キコト
熟練 労働者	入国者離米者 四、四三三 ヨリモ多キコト	入国者離米者 四、六六六 ヨリモ多キコト

(四)新移民法ノ結果渡米移民ノ大部分ハ加奈陀及墨国ヨリノ移民ヲ以テ占ムルコトナリ(一)ニ述ヘタル net immigration ノ三分ノ二ハ此ノ両國ヨリノ移民ヲ以テ占メラレタリ即チ

一九二四—二五年度各國ヨリノ net immigration ハ二

法ヲ支持贊シタルカ之レニ反シ

(二)紐育「ジャーナル・オブ・コムマース」ハ移民労働者入国数ノ激減及ヒ離米労働者ノ増加ヲ指摘シタル後 Federation of Labor ハ此ノ事態ヲ謳歌シ更ラニ進ンテ墨国移民入国制限ニ向ツテ活動セントスルモノノ如ク而シテ新移民法ニ依ル制限ノ政策ハ今後引續キ維持実行セラルヘキ大勢ニアリト思ハルモ此ノ政策カ今後ノ米國經濟界ニ如何ナル結果ヲ齎スヤハ冷靜ナル考察者ニ取リ興味アル問題ニシテ今日ノ場合俄カニ断案ヲ下シ難キモ少クトモ現行政策ハ勞銀ノ高率維持及労働時間ノ短縮ヲ可能ナラシメ一般物価ノ騰貴ヨリ惹イテ産業不振殊ニ對外貿易ノ不振ヲ来スヘキモノナルコト丈ハ予想ニ難カラストテ新移民法ニ満足セサル意ヲ表明シ「ボルチモア・イヴニング・サン」モ八日ノ社説ニ於テ新移民法ニ伴フ下級労働者不足ノ産業ニ及ボス悪影響ニ言及シ此ノ労働者ノ供給不足ハ結局労働者密輸入ノ方法ヲ以テ補足セラルルコトナル可キハ恰モ禁酒法ト一般家庭ニ於ケル酒類密造及密輸入売買トノ關係ニ於ケルカ如クナラント論シタリ

本信写送付先 在米各領事

二三四 十月二十七日 在米國松平大使ヨリ
幣原外務大臣宛

アルバート・ジョンソンノ婦人政治研究会ニ
於ケル移民問題演説報告ノ件

公第七二九号 (十一月二十五日接受)

大正十四年十月二十七日

在米

特命全權大使 松平 恒雄(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

「アルバート・ジョンソン」ノ婦人政治研究

会ニ於ケル移民問題演説ニ関シ報告ノ件

曩ニ「アルバート・ジョンソン」氏カ「ロードアイランド」州婦人選挙権者同盟会ニ於テナシタル移民問題ニ関スル演説ノ大要ハ本月十七日付公第七一〇号ヲ以テ及報告置キタル処同氏ハ更ニ本月十七日当地ニ於テ民主党系婦人ノ組織スル政治研究倶楽部ノ為メ移民問題ニ関シ演説シタルカ就中日本人移民問題ヲ黑人問題ニ比シ且布哇ノ実情ヨリ見ルモ帰化不能外国人ノ子孫ニ市民権ヲ付与スヘカラサルモノナルコトヲ力説シ尚上下両院共同ノ移民委員会ノ新説

ヲ主張スル等相当注意ヲ要スヘキ意見ヲ発表シ居レルニ付該演説大要報告ス

「アルバート・ジョンソン」氏ノ在華盛頓婦人政治研究倶楽部ニ於ケル移民問題ニ関スル演説大要

予ハ昨夏以来移民問題ニ関シテ全国各地ニ於テ演説ヲ試ミタルカ、斷シテ人種又ハ宗教上ノ偏見ニ基キテ立論セルコトナシ

最近大統領カ「オマハ」ニ於テToleranceヲ力説セラレタルカ右ハ頗ル同感ニシテ大戦以来各国民ハ頗ル Intolerantトナリ今日モ尚其余勢ニ捉ハレ居ルカ移民問題ヲ解決スルニモ亦Toleranceヲ必要トス

今後米國ノ移民政策トシテハ移民ヲ極度ニ制限スルコト必要ニシテ此ノ如キハ本問題ヲ長ク研究スル者ノ間ニハ毫モ異論ナキ所ナリ

蓋シ米國ノ人口ハ一八〇〇年ニハ五百万ト称セラレタルモノ一九〇〇年ニハ九千万ニ激増シ更ニ一九二五年ニハ一億一千五百万ヲ算ヘ若シ独逸ノ人口カ四十年間ニ倍加シタルコトヨリ推測スルトキハ恐ラク一九五〇年ニハ一億六千万人ニ達スヘシ之ニ関連シ East 教授カ其著 “Mankind at

Cross Roads”ニ於テ、米國ノ人口増加ノ結果五十年後ニハ国内ノ富源不足シ生活難ヲ来スヘキコト及ヒ米國ノ将来ノ安全ヲ図ル為ニハ同種族ノ人民ヲ以テ國家ヲ形成スルコトノ必要ナル旨ヲ力説シ居レルハ至言ト謂フヘシ

曾テ米國ハ盛ニ歐洲民ノ吸收策ヲ講シタリト雖大戰後ノ歐洲ノ社会状態ハ甚シク變動ヲ来シ若シ米國カ其門戸ヲ開放スルトキハ生活難ト重税トニ苦シメラレ居ル歐洲民ハ群ヲ為シテ渡米シ来ルヘキ形勢トナレルヲ以テ之カ対策トシテ昨年ノ新移民法制定セラレタルモノナリ其結果ハ入国者數ハ一年約三十万人ニ減少スルニ至レリ昨年ノ新移民法ニハ帰化不能外国人ノ一句ヲ存スル為或國ヨリ抗議ヲ受ケ又米國人一部ノ間ニ物議ヲ生セシメタルモ右ハ米國将来ノ安全ノ為重要ナル意義ヲ有スルモノナリ東洋人ノ排斥ハ昨年ニ始マリタルモノニ非スシテ実ニ五十年來繼續シ来レル國是ナリ

東洋人殊ニ日本人ノ入國ヲ制限スルコト無クンハ将来日本人カ著シク増加スヘキコトヲ確実ニ予想シ得ル例証ハ米國內ニ於ケル黑人ノ状態ヨリ推知シ得ヘシ黑人ハ最初亜弗利加ヨリ僅ニ三万五千人ヲ輸入シタルニ過キサリシニ今日ニ

於テハ千四百万人ノ多数ニ達シ米國ノ構成分子ニ黑人存スルカ為過去ニ於テハ南北戦争ヲ惹起シ現在及将来ニ幾多ノ懸案ヲ殘シ居レリ以テ日本人ノ無制限移民カ将来如何ニ重大ナル國家の問題ヲ齎スカヲ窺ヒ知ルヘシ

現ニ布哇ノ実状ハ此國家的憂慮ノ一小縮圖ナリ同地ニ於テハ年々日本系ノ米人増加シ而モ毫モ米化セス故ニ余輩ハ若シ下院ノ全權ヲ掌握シ得ハ憲法修正第十四条ハ之ヲ全廢センコトヲ主張セント欲ス蓋シ市民権ハ米國人ノ至高至大ノ世襲財産ニシテ妄リニ外国人ニ付与スヘキモノニアラス殊ニ帰化不能外国人ノ子孫ニ対シテ然リ若シ布哇人及比律賓人ニ市民権ヲ付与スルトキハ将来是等兩島カ生活難ノ状態トナレル場合ニ日系米人及比律賓系米人カ米大陸ニ入國シ来リ大陸ノ米國人ノ生活ヲ脅威スルニ至ルヘシ

日本國民ハ米國ノ移民政策ニ対シ甚シク不滿ヲ懷キ居レルモ賢明ナル同國民ハ必スヤ米國ノ政策ノ已ムヲ得サルコトヲ悟ルヘキモノト信ス

米國ハ宜シク之ヲ英語國民ノ國トナササルヘカラス現在米國內ニハ千四百万人ノ外国人存シ其内百五十万人ハ不正入國者ナルカ之ヲ送還ハ經濟上其他ノ理由ニ依リ從來

実行頗ル困難ナリキ

此ノ如キ状態ナルヲ以テ現行ノ一九二四年移民法ハ能ク所期ノ目的ヲ達シ居レリト雖更ニ移民制限ノ実ヲ挙クル為ニハ(一)送還法ノ改正(二)帰化法ノ改正(三)登録法ノ制定ヲナスコト肝要ナリ

此目的ヲ貫徹スル為ニハ現在ノ移民委員会ニテハ不充分ニシテ宜シク上下両院議員ヨリ成ル移民委員会ヲ新設シ本問題ノ全般ニ涉リ詳細ニ調査研究スルヲ要ス

二三五 十月三十日

在米國松平大使ヨリ
幣原外務大臣宛

ジェンクス教授ノ移民法改正意見ニ対スル反論及ビブレイクスリー教授ノ移民問題解決策

二関スル講演報告ノ件

公第七五二号

(十二月八日接受)

大正十四年十月三十日

在米

特命全權大使 松平 恒雄(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

「ジェンクス」教授ノ日米移民問題ニ関スル

意見ニ対スル駁論及「ブレイクスリー」教授ノ同問題解決策ニ関スル講演報告ノ件

曩ニ「ジェンクス」博士カ紐育「タイムズ」紙上ニ近ク適当ノ機会ニ於テ移民法ヲ改正シ日支両國人ニモ割當移民制度ヲ適用スヘシトノ意見ヲ公表シタル次第ハ九月十日付公第六四二号往信ヲ以テ及報告置キタル処其ノ後本月四日ノ同紙上ニ Edward C. Wynne ナル者同博士ノ意見ニ対シ寄書ヲ為シ博士ハ日本人ニ移民「クオート」ヲ与フルモ毎年僅二百二十六人ノ入國ヲ許スニ過キスト為スモ右ハ一八九〇年ノ人口調査ヲ基礎トスル間ニシテ若シ将来一九一〇又ハ一九二〇年ノ人口調査ヲ歩合ノ基礎トスル場合ニ至ラハ其ノ入國數ハ激増スヘク從テ日本人移民問題ヲ「クオート」ノ付与ニ依リ解決スルコトハ一見容易ナルカ如クニシテ然ク簡單ニ非ル旨ヲ論シ尙博士カ濠州其ノ他ノ英國屬領地ニ於テハ法律上各國移民ニ対シ等シク語学ノ試験ヲ課スルコトトシ其ノ間毫モ差別ヲ設ケサルモ只其ノ試験スヘキ語学ノ選定ハ移民官ノ裁量ニ委セラレ居ルヲ以テ實際ノ運用上東洋人移民排斥ノ実ヲ挙ケ得ルノ例ヲ引用シテ米國ハ宜シク日本人ニ満足ヲ与フヘキ無差別的手段ヲ考慮スヘキ

コトヲ説示シタルニ対シ米國大審院ノ判例ニ徴スルモ法律カ差別的ナリカ否ヤハ單ニ其ノ条項ノミニ依リ決スヘキモノニアラスシテ其ノ適用如何ニ依ルモノナリ從テ濠州其ノ他英領地ノ實際カ法律上果シテ無差別ナリト謂ヒ得ルヤ否ヤ疑問ナリト駁シ居レリ然ル処最近入手シタル「クラーク」大学外交史教授 G. H. Blakeslee 博士カ八月十二日「ウィリアムスタウン」政治学会ニ於テ為シタル日本人移民問題ニ関スル講演ニ依レハ日本人ニ関スル問題ハ日本移民ニ対スル人種の差別待遇ト米國在住日本人ニ対スル人種の差別待遇トノ二方面存シ日本ハ右両方面ニ亘リ差別撤廃ヲ望ムヘキモ現在ニ於テハ右何レモ困難ナリ尤モ近時加州方面ニ於テハ移民問題解決シタルモノト認メ得ルニ於テハ米國居住東洋人ニ対スル差別的立法ハ之ヲ廢止セント準備シ居ルコト明瞭ナリトシ本年一月桑港ヲ訪問シタル本邦練習艦隊ニ対スル同地方各方面ノ歓待振ヲ引用シ尙(一)加州労働者側代表者カ移民法ニ対スル改正運動無キ場合ニハ労働者側ト雖米國居住東洋人ニ対スル差別的法規ノ撤廃ニ協力スヘキ旨ヲ述ヘタルコト(二)「ウィリアムスタウン」ノ政治学会ニ於テ米國居住東洋人ニ不利ナル立法ハ東洋移民ニ対

スル立法的排斥ヲ為スノ手段タルニ過キス既ニ移民問題解決スルニ於テハ米國居住東洋人ニ不利ナル法律ノ廢止ニ参加スヘシト演説シタルコト及(三)加州ノ有力ナル代表者ノ一人カ同教授ニ対シ移民法ノ立法的排斥ヲ廢止セントスル運動ナキ場合ニハ加州人ハ次ノ議會ニ於テ米國居住東洋人ニ対スル差別的立法ヲ廢止スヘキ運動ヲ開始スヘキモノト信シ得ル理由存スル旨ヲ述ヘタルコトヲ例示シ此ノ如キ運動開始セララルモ直チニ成功スルモノトハ思惟セラレス又東洋人排斥ニ努力セル一部加州人ノ反感ヲ誘発スル虞アルコトヲ述ヘタル後合衆國ノ政策トシテハ(一)一九二四年ノ移民法ヨリ立法上ノ排斥ヲ除去セムトスル一切ノ組織的運動ハ暫ク之ヲ拋棄シ(二)米國居住外國人ニ対スル不利ナル差別的立法ハ之ヲ廢止シ且(三)一九二四年移民法運用ノ規則及方法ハ之ヲ改善變更スルニアリトナシ(四)ノ問題ニ付テハ(イ)入國許可前ニ入學許可ヲ要スル為メ日本學生ノ減少セルコト及(ロ)日本婦人カ大学ニ入學セントシテ証書ヲ取得スル為メ東京ニ送還セラレタルコト(ハ)日本商人ノ妻同伴ニ關スル制限等ヲ例示シ最後ニ合衆國トシテハ公然日本ニ対スル友情ヲ示スヘキ措置ヲ執ルコトヲ要ストナシ恰モ米國ノ立場ハ二

人ノ友人間ニ於テ相手方ニ對シ其ノ人カ重大ナル侮辱ト認ムルカ如キ行為ヲ為シタル後其ノ友誼ノ存スルコトヲ示ス為メ苦心スルニ似タルモノトナシ沿岸各州ノ差別的法規ノ廢止ハ正ニ之カ為メニナサルヘキモノトナシ前記ノ内最後ノ二点ハ政府ノ意見ヲモ代表スルモノト信スル旨ヲ述ヘ居リ右 Wymne ノ意見及 Blakeslee ノ所見ハ共ニ夫々本問題ニ關スル当方面ニ於ケル一部論者ノ見解ヲ代表シ居ルモノナルヤニ被認ルルニ付何等御参考迄ニ右報告ス

二二六 十一月二十五日 在米國松平大使ヨリ
幣原外務大臣宛

フェデラル・カウンシル・オブ・チャーチエ
スノ移民問題ニ對スル運動方針ニツキ報告ノ件

機密第一三一号 (十二月十九日接受)

大正十四年十一月二十五日

在米

特命全權大使 松平 恒雄 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

Federal Council of Churches ノ日米問題ニ

對スル運動方針ニ關シ報告ノ件

首題ノ宗教団体ノ日米問題ニ關スル從來ノ態度及ヒ之レニ對スル「マクラッチー」等ノ對抗運動ニ關シテハ當館及ヒ在桑港及ヒ「シヤトル」領事館等ヨリノ累次ノ報告ニテ御承知ノ通ナル処今夏歐洲ニ旅行中ナリシ「ギューリック」博士先般帰米ノ上沢田ヲ來訪シタル際「マクラッチー」一派カ依然教会側ノ運動ニ對シ惡声ヲ放チツツアルヲ嘆シ同人カ「一九二七年ニ於ケル移民「クオート」變更ノ時期ニ際シ日本人ヲ「クオート」移民中ニ加フルカ為メ現行移民法ヲ改正セムトスル運動米國內ニ行ハレツツアル処斯ノ如キハ一方ニ於テハ之ニ對抗スル反對運動ヲ激成シ他方ニ於テハ徒ラニ日本人ヲシテ空虚ノ希望ヲ懷カシメ結局日米ノ国交ニ一層惡結果ヲ招來スルニ過キス」トテ「カウンシル」側ノ態度ヲ攻撃シ特ニ自分ノ行動ヲ以テ売國的行動ナルカ如ク吹聴シ人身攻撃ヲ為シツツアルニ至ツテハ甚タ心外ニ堪エス殊ニ「フェデラル・カウンシル」ノ本件ニ對スル態度ニ關スル「マ」一派ノ所説ハ全然誤解ニ基クモノニシテ何等ノ真相ヲ伝フルモノニ非ス之等ニ對シテハ何レ適當ノ機會ヲ捉ヘ相當ノ措置ヲ執リ度キ所存ナル旨縷々陳述

スル所アリ依テ沢田ハ「カウンシル」側ニ於テハ其後本件ニ關シ如何ナル方針ヲ以テ活動ノコトヲ決定セラレタリヤ尋ネタル処実ハ「カウンシル」側ニ於テモ其後各方面ノ意見ヲ探リ慎重ニ考量ノ結果此際一九二七年ノ移民「クオート」變更ノ際日本人モ「クオート」移民中ニ加ヘントスル政治的運動ヲ試ミルモ成功頗ル疑ハシト認メタルニ付此際斯カル政治的行動ヲ執ルコトハ全然之ヲ中止シ差當リ各方面ニ亘リ日米親善關係増進ヲ目的トスル啓発運動ヲ行フコトニ決シ着々其方針ヲ講シ居ル次第ナリ何レ此等ノ事ニ付テハ不遠書面ヲ以テ通報スヘキ旨申居リタル趣ナルカ其後本月十五日ニ至リ同博士ヨリ「日本移民問題ニ關スル「フェデラル・カウンシル」ノ活動方針」ト題スル別添聲明書ヲ送付シ來レリ右活動方針ニ依レハ「フェデラル・カウンシル」カ日本人ヲ「クオート」移民中ニ加フル為一九二四年移民法ノ改正ヲ企テ議會ニ對シテ政治運動ヲ為シツツアルトノ説ハ全然訛伝ニシテ「フェデラル・カウンシル」ハ何等此種ノ計画ヲ有セス然レトモ太平洋沿岸一部人士ノ反對ノ為メ教会側ハ排斥法ニ起因スル事態ニ処スル其活動ヲ拋棄シ移民問題ヲ以テ最早過去ノ事実ト目スルニ至レリト

為スハ甚タ當ラス「フェデラル・カウンシル」幹部ハ其極東關係委員會ニ對シ米國ノ健全ナル輿論ヲ喚起スル為メ日米關係ノ真相ヲ一般國民ニ知得了解セシムル為一段ノ活動ヲ為スヘキ旨命令シタリ「フェデラル・カウンシル」ノ努力シツツアル処ハ実ニ此ノ啓発的運動ニ外ナラスト聲明シ進ムテ同団体カ國民ニ對シ指摘セムトスルハ議會カ國際禮讓ニ反セサル方法ヲ以テ事實上現行法ト同程度ノ亜細亞移民入國禁止ヲ実行シ得ヘキ途アルニ拘ラス之ヲ無視シ以テ亜細亞人ニ侮蔑ヲ感セシメツツアルコトナリト述ヘ其解決策トシテハ(イ)移民「クオート」ヲ亜細亞人ニ適用シ(ロ)帰化ノ条件ヲ嚴重ニシテ亜細亞人ニモ帰化權ヲ与フルコトトスヘキモ今ハ此等ノ具體的提案ノ採用ヲ迫ルモ無益ノ事ニ屬ス我カ教会及學生ハ今ヤ侵々トシテ世界生活ニ入り國際關係ニ於テ平等正義及榮譽ヲ主張シ居レル思慮アリ自覺セル亜細亞ノ大局ヲ念頭ニ置キ上記ノ問題ニ關シ慎重考究スヘキナリ云々ト述ヘ居レリ委細ハ別添同聲明書ヲニテ御承知相成度シ尚ホ「ギューリック」博士ヨリ「マクラッチー」ノ同博士ニ對スル攻撃ヲ弁駁スル趣旨ヲ以テ起草セラレタルモノナリト認メラルル桑港商業會議所副會頭「リンチ」

氏及ヒ同地「ギ」博士ノ個人的知友「マーヴィン」嬢ニ宛テタル書面写ニ通併セテ送付シ来リタル処右書面記載事項中前記「フェデラル・カウンシル」ノ活動方針ヲ敷衍説明

セル点モ有之ニ付右御参考ノ為メ併セテ送付ス御査閲ヲ乞フ

編註 別添声明書等省略ス

事項九 太平洋問題調査会関係

二三七 二月二十四日

在ニュー・ヨーク斎藤総領事ヨリ
幣原外務大臣宛

太平洋問題会議開催決議ニツキ報告ノ件

機密第八号

(三月二十日接受)

大正十四年二月二十四日

在紐育

総領事 斎藤 博(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

太平洋問題会議開催決議ニ関スル件

本月二十二日紐育「イェール・クラブ」ニ於テ「ハーヴァード」「イェール」「プリンスストン」「コロムビア」「ジョンズホプキンス」「ニューヨーク」「クラーク」諸大学教授其他三十五名ノ有志(別表ノ通)^(省略)会合シ「リーラント、スタンフォード」大学総長「ウィルバー」氏司会者トナリ本年七月「ホノルル」ニ於テ同地銀行家ニシテ前商業会議所会頭タル Frank C. Atherton 其他ノ有志ノ勧誘ニ応シ太平

九 太平洋問題調査会関係 二三七

洋問題会議ヲ開催スルニ賛成スル決議致候当日当館書記「ライレー」出席シタル処討議ノ模様ニ依レハ右「ホノルル」ニ於テ催サルヘキ會議ハ「ウィリアムスタウン」ニ於ケル政治学会類似ノモノトシ事実探究ヲ主眼トスヘク適当ト認ムルニ於テハ更ニ他ノ會議ヲ計画スルコトヲ得ルコトトシ會議出席者ヲ百二十五人トシ内米國人ヲ二十五人ニ限ル案ニ有之席上「ローラント・モリス」氏ハ排日法通過後事態鎮靜ニ帰シツツアル折柄斯クノ如キ企テハ徒ラニ平地ニ波瀾ヲ起スモノニ非サルヤト述ヘ本計画ニ対スル國務省側ノ態度ヲ質問シタルニ主催者側ハ「マクマレー」氏ハ問題茲マテ進捗セル以上布哇ノ海軍演習等同様之ヲ阻止セントスルハ却テ有害ナルニ付敢テ反対セサルヘシトノ意見ヲ有スト答ヘ「プリンスストン」ノ「フィリップ・マーシヤル・ブラウン」「ハーヴァード」ノ「デョーデ・クラフトン・ウィルソン」氏等ハ會議開催ニ熱心ニシテ従来國務省力常ニ斯カル会合ヲ喜ハサリシハ誤リナリト論シ例ノ支